

「共に生きる社会」の実現をめざして

IUHW



vol. 103
November
2015

International University of Health and Welfare

海外保健福祉事情

第5回
幸齢者スクール

第6回
キッズスクール

第5回
国際医療福祉大学学会
学術大会

風花祭
かざ はな さい

第20回 大田原キャンパス





1996年10月の第1回風花祭が本誌10号の表紙を飾った。以来、回を重ねて今年が20回目の節目となった。

屋内イベントも充実



できたばかりのボードゲームサークル「人狼」



大学院助産学分野のアロマハンドマッサージコーナー



ハンドベル部では、実際にベルを鳴らしてみる体験ができた



ボランティアグループ「かざはな」による恒例の「満喫ツアー」。キャンパス内の施設利用者も風花祭の雰囲気を堪能した。

屋台は今年も大繁盛!



どうしてこう書いたのか?
でびるず (Devils) と読みます!

October 10 Sat ~ 11 Sun 2015

大田原キャンパス

かざはなさい

第20回

風花祭

今年のテーマは

「20th anniversary
風花成人式 ~今華ひらくとき~」

開学2年目の1996年10月にスタートした風花祭は今年で20回目を迎えた。

20期生の神山実行委員長も20歳を迎えたばかり。学生一人ひとりがここをスタート地点として、将来、医療従事者としてそれぞれの華を咲かせてほしいとの願いをテーマに込めた。(大田原キャンパス広報室 金井雅之)



10日には、教育後援会「会員のつどい」が開催され、本学の天野隆弘副学長・大学院長が、「病気にならないために —未病でふせぐ生活の知恵」と題して記念講演を行った。

今年は豪雨の被災地支援も実施



実行委員長は作業療法学科2年の神山篤土さん。(栃木県立さくら清修高校出身) 実行委員総勢155人を束ねる大役をつとめた。



5年目になった被災地支援。今年は9月初旬に関東・東北地方を襲った豪雨の影響により、野菜の収穫が大きな打撃を受け、宮城県岩沼市からの仕入れはきゅうりだけとなった。そのため、卒業生や関係者に呼びかけ、さつまいも、じゃがいも、さといも、りんごなどを安価で仕入れて販売した。収益金の211,000円は、全額を岩沼市に寄付した。

気になる看板を発見

本学の基本理念のひとつである「社会に開かれた大学」は、学問を創造的に追究するとともに、地域の医療福祉のニーズに応え、医療福祉職の生涯教育の拠点となることをめざすものである。

この理念を体現する三つのイベントに、今年も、教育・医療福祉関係者や地域の高齢者、小中学生など多くの方が参加し、それぞれの立場から、医療福祉の最前線の知識に触れた。

(大田原キャンパス広報室 金井雅之)

第五回 国際医療福祉大学学会

八月二十九日、三〇日、大田原キャンパスにて、「第五回国際医療福祉大学学会学術大会」(大会長・桃井眞里子副学長・国際医療福祉大学病院長)を開催した。



●開会式でメインテーマについて述べる桃井大会長

今回のメインテーマは「2015 医療福祉の最前線」。

桃井大会長は開会式のあいさつのなかで、今回のテーマを決めるにあたり、本学が二〇周年を迎え、「2015」という数字を入れておきたかったこと、さらに、

本学会員の皆さんや本学の学生が日本の医療福祉の最前線に立っていることを鑑み、後輩へのメッセージをこめて、「最前線に立って前を見据える」姿勢を表したかったと述べた。

今回は、一般演題はすべてポスター発表となり、二六四題が発表されたほか、二つの特別講演、シンポジウム、「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」一般市民公開講座・講演会などが開催された。これらを通して、医療福祉の最前線の知見や、本学が開学以来継続している国際貢献の成果や将来展望などが共有され、メインテーマにふさわしい実り多い学術大会となった。

さらに、掲示されたポスターと抄録の中から若手研究者奨励賞が選出され、九月一五日、合同教員研修会において、受賞者によるプレゼンテーションと表彰が行われた。

最優秀賞 窪田聡 准教授

(小田原保健医療学部作業療法学科)「フーラー位中の生体負荷を減らす補助具の開発―循環器機能に焦点をあてて―」

優秀賞 岡真一郎 助教

(福岡保健医療学部理療学科)「空間認知障害に対する前庭リハビリテーションの効果と神経生理学的メカニズムの解明―transcranial direct current stimulationを用いた研究―」

優良賞 大塚尚 助教

(総合教育センター)「自殺回避要因から考える自殺予防対策―現代の大学生が抱える「生きづらさ」の実態調査から―」

第六回 キッズスクール

主催…国際医療福祉大学、大田原市、大田原市教育委員会、後援…栃木県、那須塩原市、那須塩原市教育委員会、那須町、那須町教育委員会、協賛…ネットヨタ栃木株式会社

八月一九日、大田原キャンパスにて、「第六回キッズスクール」を開催した。医療福祉の仕事を楽しみながら体験するこの企画に、小学生五八名と中学生五四名が、それぞれ四つのグループにわかれて参加した。小学生は医療福祉サービスを受ける側、中学生は医療福祉に従事する側から、さまざまな体験をした。毎年、参加者が一番楽しかった。



●シミュレーターで内視鏡手術を体験する参加者

たと振り返るのが「手術シミュレーター」で、現役の医師の手ほどきを受けながら、内視鏡手術によって胆のうを摘出した。最後に、北島政樹学長から一人ひとりに「ヘルスケア・ジュニアリーダー認定証」が手渡された。五年前、第一回キッズスクールに参加した小学生が、昨年四月、本学の放射線・情報科学科に入学した。このイベントへの参加をきっかけに、さらに多くの子どもたちが医療福祉への関心を高めてくれることを望んでいる。



●目隠しをして盲導犬に引かれる参加者

一日目の主なプログラム

- 関連職種連携実習報告会
- 同窓会マロエ工芸会総会
- 学科分科会
- 特別講演Ⅰ

「日本医療研究開発機構のミッションと展望」

末松誠 国立研究開発法人

日本医療研究開発機構 理事長



●特別講演Ⅰ 末松誠 日本医療研究開発機構 理事長

特別講演Ⅱ

「想像するから：チンパンジーが教えてくれた人間の心」

松沢哲郎 京都大学霊長類研究所 教授



●特別講演Ⅱ 松沢哲郎 京都大学霊長類研究所 教授

二日目の主なプログラム

- ポスターセッション
- 先端漢方医薬学教育研究センター研究報告
- 国際医療福祉大学学会総会
- 臨床工学技士セッション
- シンポジウム

「医療福祉における国際貢献のあり方」

「看護職としてできる国際貢献」

青柳美樹 小田原保健医療学部 看護学科 准教授

「リハビリテーション領域における国際交流の役割―中国リハビリテーション研究センターと国際医療福祉大学の連携―」

黄秋辰 中国リハビリテーション研究センター／理学療法士

第五回 幸齢者スクール

主催…大田原市、国際医療福祉大学、後援…八溝山周辺地域定住自立圏推進協議会、協賛…オクラ眼鏡店、ネットヨタ栃木株式会社、株式会社療養サービス

九月一七日、大田原キャンパスにて、「第五回幸齢者スクール」を開催した。医療福祉の世界を学びながら、若さと健康度をチェックすることが目的である。午前の部の医療福祉講演会には一五八名が参加した。天野隆弘大学院長が「物忘れは認知症ですか?―認知症を理解するため―」、原直人教授(視機能療法学科)が



●体操の際の心得を指導する下井准教授

「加齢と見え方の変化―老いてますますみえるように―」と題して講演を行った。さらに、講演の間に、下井俊典准教授(理学療法学科)による「体操を通じて介護予防を!―ちよつとした時間で体操のコツを教えます―」が行われ、歩行の際に無意識に使っている、体をひねる動き、片足で立つ動きを鍛える運動を紹介した。午後の部の体験学習には事前に申し込んだ七三名が参加した。体操、クイズ、健康チェック、病氣予防、詐欺被害を防ぐ心構えなど、八学科がそれぞれ工夫を凝らした企画を実施した。



●運動の前後の血中酸素濃度を計測する看護学科の学生

「国際緊急援助隊での活動を通じた国際協力」小西英一郎 国立病院機構災害医療センター 中央放射線部

「医療福祉における国際貢献のあり方―医師・国際学術交流の観点から―」永山正雄 国際医療福祉大学熱海病院副院長 脳卒中・神経センター長/教授

(司会)糸山泰人 国際医療福祉大学副学長

■がん先端医療多職種連携実習発表会

■文部科学省事業「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」

一般市民公開講座 講演会

「胃がんと子宮がんにならないために」

「胃がんの発症予防と早期発見・最新治療」吉田昌 国際医療福祉大学病院

消化器一般外科/教授

「主な婦人科がんのおはなし」子宮頸がん、子宮体がん および卵巣がん 適正な検診および治療を受けるために」

大和田倫孝 国際医療福祉大学病院副院長

産婦人科部長/教授

(座長)森川康英 国際医療福祉大学病院 小児外科/教授

国際医療福祉大学がんプロコーディネーター

関連職種連携実習報告会

大会初日の午前中には、関連職種連携実習報告会が開催された。これは「チーム医療・チームケア」を学ぶ「関連職種連携教育」の最終ステップにあたる。臨床実習を行った二〇チームの発表には、実習先で学生の指導にあたった担当者駆けつけ、学生たちの学習の成果を確認するとともに、さらなる自己研鑽へのヒントを投げかけた。



●発表と質疑応答に臨む学生チーム

2.3 特集1 第20回 風花祭 大田原キャンパス



4.5 特集2 大田原キャンパス 夏～秋のイベント 国際医療福祉大学学会学術大会／キッズスクール／幸齢者スクール

6-9 特集3 海外保健福祉事情 オーストラリア・ハワイ・台湾・中国 ベトナム・タイ・ミャンマー・シンガポール

キャンパスレポート

- 10-12 小田原キャンパス／福岡キャンパス／大川キャンパス／大学院
成田キャンパス／塩谷看護専門学校

トピックス

- 13 留学生別科入学式を開催／合同教員研修会を開催
14 「第二代看護学科長 中西睦子先生を偲ぶ会」開催／看護学科と同窓生の絆／元培醫事科技大学留学生が四年連続、視機能療法学科で学ぶ／公開講座「学び直しの英文法」開催
15 「おおかわ交流プラザ」完成記念式典／山王病院 新館手術室でダ・ヴィンチ稼働開始／全国リハビリテーション学校協会教育研究大会・教育研修会／全老健全国大会

国際トピックス

- 16 ベトナム健康管理委員会訪日団が来訪／「健康長寿広報展 in ベトナム」に出展／留学生が見た 母国と日本の保健福祉事情

施設インフォメーション

- 17 国際医療福祉大学塩谷病院／国際医療福祉大学病院／国際医療福祉大学三田病院／国際医療福祉大学熱海病院

- 18 同窓会通信
19 生涯学習のご案内
20 学生投稿ページ

学生news

9月14日の夕刻、那須塩原駅付近で倒れている初老の男性を本学の作業療法学科1年平瀬朱理さん(福島県立白河旭高校出身)が発見し、救急車が到着するまで介抱しました。翌日、ご家族から丁寧な謝辞が届きました。「人命救助」は人として当たり前のことですが、率先して行うには一歩踏み出す勇気と冷静な判断力が必要です。本学から平瀬さんのような学生が数多く育つことを願います。



海外
保健福祉事情

今年も夏休み期間中の約二週間、総合教育科目「海外保健福祉事情」が実施された。三か月の国内事前研修ののち、八か国、一〇グループにわかれて、それぞれの国の保健福祉事情を自分の目で確かめ、肌で感じてきた。参加者数は、学生三七六六人、教職員二三人の総勢三九九人にのぼった。

オーストラリア（ホームステイ）
TAFE クイーンズランド手術支援ロボット
「ダ・ヴィンチ」に感激

福岡保健医療学部 医学検査学科
教授 宇治義則

約二週間、TAFE英語部およびホームステイ先での語学研修に加え、
①私的病院・老人ホーム訪問・ドクターヘリ施設などの見学、②オーストラリアの医療事情などの講義、③患者搬送・血圧体温測定・足のマッサージ法等の実習、④ジャパン・デーでの交流、など盛りだくさんの研修を行った。

最終日、学生はいずれもホストファミリーの父母とハグし、涙で別れを惜しんだ。医療を学び始めてわずか一年数か月の学生にとっては、少しハードルの高い研修にも思えたが、それぞれが何かを掴み、少し成長して帰国できたように感じ

ている。研修では、とりわけ、医師に人的・物的医療資源を提供することを目的に開設されている私的病院で手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ」を見学し、皆がその動きに感激した。

英会話の楽しさと
力不足をとにも実感

福岡保健医療学部 作業療法学科
二年 仲村澄高

大川・福岡・小田原キャンパスの学生二九名と引率教員二名の三二名が参加したこの研修では、病院や老人保健施設の見学、TAFE語学学校の授業などを体験し、多くの刺激を得た。

研修の一環としてホームステイを体験した。初めの数日はまったくといっていいほど話が聞き取れず、とても苦戦した。だが、TAFEでの英語の授業と、海外にいるという環境のおかげで、数日もするとかなり聞き取れるようになった。そうなるとう話が楽しくなってくるのだが、自分の語彙力が乏しく、伝えたいことを全然伝えられなかったのが一番悔しかった。今回のこうした経験を、今後の学習に生かしていきたい。



●語学学校のTAFE

ハワイ
ハワイ大学カピオラニカレッジハワイのおもてなしと
学生の成長に感動

保健医療学部 言語聴覚学科
講師 岩崎淳也

八月三日から八日、ハワイ大学カピオラニカレッジにおいて、学生三七七名が研修を行った。カピオラニカレッジは、全米で最も日本人留学生を受け入れており、先生方やスタッフは、ハワイアン・ホスピタリティの精神で温かく迎えてくださった。

研修プログラムは、午前中は一般英語・医療英語の講義、午後はハワイにおける医療事情の講義や



●ハワイアン・ホスピタリティの精神があふれる講師の先生方を囲んで

国境を超えて「心」で
繋がる

保健医療学部 言語聴覚学科
二年 安藤佐津季

約一〇日間のハワイ研修に参加した。暑くても過ごしやすい気候や海の透明度に、日本では味わうことのできない感動を覚えた。

研修では施設や病院を訪問したり、ハワイの歴史を学び、ハワイ流のもてなしを受けた。挨拶をする時に相手と鼻先を合わせることを知り、文化の違いに驚いた。現地の方々と会話し、活動とともにすることで、国境を超えて心の交流を図れたことが嬉しかった。過密スケジュールの中で繰り返される課題をこなしていくのは大変だったが、一つひとつクリアしていくことで自信に繋がっていった。

人の温かさやハワイの文化や歴史に触れ、有意義な時間を過ごすことができた。新しいことの発見の連続で新鮮な毎日だった。

台湾
元培（ユンペイ）醫事科技大学

実りの多い学生同士の交流

保健医療学部 放射線・情報科学科
教授 平間信

八月二日から一五日まで、学生五九名が参加して、台湾新竹市の元培醫事科技大学で研修を行った。滞在中、強力な台風一三号が台湾に上陸したため、半日間停電するというアクシデントに見舞われたものの、台湾の医事情など、それぞれの特色のある医療



関係四施設の見学を通して、台湾の医療保健福祉の状況を知ることができた。また、教員・カフェテリア職員の親切で温かい人柄に触れながら、台湾の人物・言葉・食べ物・文化を体験した。特に、同世代のボランティアの学生とは文字通り寝食をともにし、見送りの際、空港で双方の多くの学生が涙で別れを惜しむ光景が印象的だった。この経験は学生の将来に必ず役立つものと確信している。

積極的になった自分を
実感

保健医療学部 放射線・情報科学科
二年 本田沙輝

病院や老人ホームの見学、医療福祉事情や看護教育に関する講義を通して、台湾の福祉事情や医療体制を学ぶだけではなく、中国語や台湾の文化などさまざまな体験をした。放射線科での病院見学の際、日本では患者さん取り違い防止のためにフルネームと生年月日を本人に言ってもらいが、台湾では個人情報保護のために、そのような確認は一切なく、ICチップで行っていた。こうした違いを知ること、日本や他国の医療に、これまで以上に興味を持つきっかけになった。

学生ボランティアとの交流などを通して積極的に行動し発言することが身につき、また、両国の関係がますます発展するために私にできることがあれば、すすんで協力したいと思った。

中国
中国リハビリテーション研究センター緊張感のある実習指導に
感謝

保健医療学部 理学療法学科
学科長 久保晃

研修先の中国リハビリテーション研究センター（CRRCC）では、手術室や漢方薬局などの見学に加え、理学療法室、作業療法室、言語聴覚室、薬剤



●青空のもと、八達嶺長城を視察

室で実際に現地職員の指導のもと、緊張感をもった臨床実習もあり、大いに刺激を受けた。JICA事務所の訪問では、リハビリテーションの発展を中

施設・病院の見学等が行われた。開始当初は戸惑いが見られ、学生からの積極的な発言は見られなかった。しかし、最終日の「ファイナルプレゼンテーション」では、堂々と英語でスピーチしたり、創作した英語劇を披露したりするなど、短い期間での変化が認められ、教員もその成長に驚かされた。今回の研修で得られた貴重な経験を、今後の学生生活に生かしてほしい。

心にしたプロジェクトの実績を具体的に学ぶことができた。

さらに、京劇や雑技観賞など中国文化に触れることができ、万里の長城、景山公園、頤和園などの景勝地を訪問した。

CRRCCをはじめ、どこに行っても北京は人、人、人。人の多さと渋滞に圧倒された二週間でもあった。今回、教員三名、学生五二名の大勢で北京へ赴いたが、CRRCCの皆様方の心温まる協力により、充実した研修プログラムとなった。心から感謝申し上げたい。

研修を終えても
続く繋がり

保健医療学部 理学療法学科
四年 屋良柚己子・南雲里穂・加藤なつみ

臨床実習を終え、四年生として海外保健福祉事情に参加し、北京の医療福祉のあり方や日本との文化の違いを肌で感じる事ができた。臨床実習では現地指導者が一人ひとりについて、丁寧な指導をいただいた。また、リハビリテーション分野の脊髄損傷の領域では、高い医療技術が提供されていた。お世話になった実習指導者とは現在でも連絡を取っており、素敵な繋がりを持つことができた。

実習以外でも万里の長城や頤和園など中国の歴史にまつわるスポットを巡り、中国について勉強するよい機会になった。忙しい時期での海外保健福祉事情への参加だったが、貴重な経験をすることができ、参加してよかったと思っている。

★ ベトナム チヨライ病院・ ホーチミン市医科薬科大学病院

**日越の文化・
医療事情の違いを学んだ**
福岡保健医療学部 言語聴覚学科
准教授 安立多恵子

私たちのグループには、小田原、福岡、大川の三キャンパスから看護学科、作業療法学科、言語聴覚学科、医学検査学科の学生五〇名が参加した。ベトナム研修は二グループが編成され、一週間交代でチヨライ病院とホーチミン市医科薬科大学病院で実施した。病院内を見学し、医療制度や病院の役割などを学んだあと、小グループ



●ホーチミン医科薬科大学にて

にわかれて、各学科の専門性に合わせたプログラムをこなした。何度も言葉の壁に阻まれ苦しい思いをした学生たちも、ベトナムの研修生や学生たちとの交流を通して、日増しに発信・受信の感覚が高まった。うまく伝わらなかつた悔しさも、うまく伝わった喜びもどちらも体験できたと思う。

入学前から決めていた 海外研修に参加

福岡保健医療学部 作業療法学科
二年 大石末和

私は海外研修で視野を広め、他国の医療事情にも触れたいと思い、本学に入学した。今回の研修で感じたのは、事前に知り得た状況以上にベトナムの貧富の格差が大きいことであつた。誰でも受け入れる病院には、病室はもちろん、廊下にもベッドが所狭しに並べられている病棟がある一方、まるで別世界のような個室病棟があつた。また、対象者が限定される病院では、完備された病室で最新の医療機器を使った医療が行われていた。

日本と異なり、ベトナムではまだ医療制度が整っていないと感じた。しかし、患者に対する家族の支援はとても温かく、日本では見られない家族の光景を目にすることができた。このように医療や価値観などの違いは、海外研修だからこそ気づくことができ、貴重な体験となった。

タイ バンコクホスピタル

**まさに
「百聞は一見にしかず」**
大田原キャンパス 語学教育部
助教 三浦美恵子

現地の病院、高齢者施設、エイズ寺院などを訪問した中で、特に、バンコクホスピタルで見た光景が印象に残っている。この病院は医療ツーリズムに力を入れており、言語、文化、宗教が異なる患者のために、通訳、保険、食事などに関する多種多様なサービスを提供している。院内には国別の専用クリニックが設置されており、患者は自分の国のカウンターに行けば、受付、診察、処方まで母国語で行うことができる。実際に、体調不良の学生を日本人専門クリニックに連れて行ったところ、最初から最後まで日本語で対応してくださつた。タイの医療ツーリズムについて聞いたことはあつたが、今回の研修はまさに「百聞は一見にしかず」ということわざの正しさを実感する貴重な機会となった。

異文化の中で、 共通する看護の心を実感

福岡看護学部 看護学科
三年 SUN MING LU

今回の海外研修を通して、タイの医療や文化、生活習慣などについて知ったことは、貴重な体験になった。特に

シンガポール ナンヤンポリテクニク

**講義からの学びを見学で
深めるプログラム**
福岡保健医療学部 理学療法学科
講師 徳江武

九月六日から一五日、大川キャンパスの学生二三名、小田原キャンパスの学生五名がシンガポール研修に参加した。理学療法士、作業療法士などを養成するナンヤンポリテクニクによる支援のもと、総合病院、コミュニティホスピタル、障がい者福祉施設、精神科病院、作業療法士の開業クリニックなど、充実した視察内容だった。また、ナンヤンポリテクニクでは、シンガポールの福祉についての講義、医療についての講義、スプリント作成実習が提供された。静岡県駐在員による社会情勢についての講義もあった。学生は、講義で学んだ内容を施設で実際に見学し、理解を深めることができたようである。現地学生との交流プログラムでは、シンガポールの遊びで交流したあと、日本の祭り、ダンス、遊びを紹介した。

医療にまつわる制度や 文化の違いを実感

福岡保健医療学部 言語聴覚学科
二年 下門里穂

このシンガポール研修は、医療人をめざす私にとって重要な経験となった。同じ高齢化社会であるが、シンガポ

印象に残ったのは、現地の病院を見学し、タイの医療の現状を目の当たりにしたことである。医療に携わる者として、異なった文化や背景をもった患者をよく理解し、尊重して受け入れることの大切さを学んだ。また、言語の違いがあるとはいえ、医療従事者として患者を助けたいという気持ちや診療基準などはどの国に行っても同じであると感じた。



●バンコクホスピタル内にある日本人専門クリニック

看護学生である私は、今回の海外研修を通して、いろいろな国の文化や医療事情に関する知識を広げ深めていく必要性を感じた。また、世界の人々ともっとコミュニケーションをとることができるよう、英語力を向上させたいと思う。



ルと日本の医療制度は大きく異なっている。シンガポールの制度は自立性を求めるものが多く、患者自身に選択権を与えていた。それに加えて、日本よりアットホームな病院づくりをしているところが多く、日本も見習うべきだと感じた。

一日間生活する中で言葉の壁を感じたが、日に日に伝えたい気持ちを表に出せるようになり、医療人にとって最も大事なコミュニケーションを学ぶことができたと思う。この研修で自分に足りなかったコミュニケーションなどの課題を見つけることができたため、これからの学校生活や実習において改善し、さらなる高みへと進んでいきたい。



●Institute of Mental Healthを見学

★ ミャンマー ヤンゴン看護大学・ ヤンゴン医療技術大学

**宝石と昭和の
ノスタルジイの国**
福岡保健医療学部 作業療法学科
学科長 原口健三

総勢一六名（大川キャンパス七名・福岡キャンパス四名・大田原キャンパス五名）の研修は、ヤンゴン看護大学とヤンゴン医療技術大学の先生方の心温まるアテンドによって大変充実した内容となった。フリーの時間と夜は、学生それぞれが小グループで市内を視察し、同時に、ヤンゴンの人々との交流やショッピングを楽しんでいたようだ。

ミャンマーは「アジアの最貧国」といわれ、長期の軍事政権下にあった影響が残っているが、ちょうど日本の戦後復興から高度経済成長期の雰囲気がある。漫画の「三丁目の夕日」のような「昭和の古き良き時代」が連想でき、人々は親切で働き者が多く（日本人に似ている）、食事もおいしく、治安も良好だった。

親切で笑顔の国ミャンマー

福岡保健医療学部 作業療法学科
二年 河原永遠

ミャンマーの文化に触れ、ミャンマーという国の良さや人柄の良さに感動した。正直に言えば、研修に行く前はミャンマーという国自体をまったく知らず、メディアからのステレオタイプ型の情報しか



●ヤンゴン看護大学の学生との交流会

持っていなかったもので、不安だらけだった。しかし、最貧国と言われているのが嘘のようにミャンマーの人たちは明るく、私たちを笑顔で歓迎してくれた。ミャンマー研修は、英語力の必要性やミャンマーでの医療事情、衛生管理と食事のバランスの大切さといった多くのことを知るよい機会となった。

とても心豊かな国・ミャンマー。まだ行ったことのない方は、ぜひ訪れてみてほしい。

第36回 小田原

キャンパスレポート

「Health Science International Conference 2015」で講演

本学の協定校の一つである、タイ・クリスチャン大学が主催した国際学会「Health Science International Conference 2015」に招待された。

今回の学会は、「Global Health Science for A Better Quality of Life」をテーマとして、

特に、理学療法・生体医工学・食品製造技術に焦点をあて、各分野より三名の基調講演者が招聘された。各分野の教員や臨床家および学生を中心に約百数十名が来場する中、私は理学療法分野の講演を担当した。



●参加者に実技を施している様子

「Update of Physical Therapy Management in Musculoskeletal Condition」(骨関節系理学療法における最新知見)をテーマに、骨関節理学療法に関する



●基調講演者との集合写真(前段右端が宮森講師)

新情報を提供し、実技として頸部・腰部痛におけるケーススタディと治療技術等を紹介した。

近年、医療の国際化が急速に進んでいる。今後も本学を卒業した医療従事者が、国内外を問わず活動・活躍できる機会を提供できるよう、教職員ともどもサポートしていきたい。

(理学療法学科 講師 宮森隆行)

第40回 大川

キャンパスレポート

学内就職説明会 開催

一〇月五日、大川キャンパスの講堂にて理学療法学科・作業療法学科・言語聴覚学科の四年生を対象に学内就職説明会を開催した。



●真剣なまなざしで説明会に参加する学生たち

午前の部に四八施設、午後の部に五五施設、計一〇三施設ものの病院や企業が参加した。福岡県内はもちろん、東京から離れた企業の人事担当者もおり、本学の学生に対する期待の高さがうかがわれた。

(入試学生募集課 井上雅博)

第二回月華祭 開催

一〇月一〇〜一一日、月華祭が開催された。今年のメインテーマは、「二咲合彩(いつさいがっさい)」。

一人ひとりが輝き、一致団結しようという思いが込められている。

一日目のステージでは、ゆるキャラ運動会をはじめ、サークルによるダンス、フラダンス、エイサーなどが披露された。焼きそば、たこ焼き、からあげなどの屋台が多数出店し、地域の方々もお祭りの雰囲気を楽しんだ。また、オープンキャンパスも同日開催され、入試対策講座や学科体験コーナーに多くの高校生や保護者が真剣なまなざしで参加していた。



●約3000個の灯明がエンディングを幻想的に飾った

二日目は、本学の梅村創教授(高木病院臨床検査部長、同臨床微生物・遺伝子検査研究センター長)による特別講演会「遺伝子検査でわかること〜これからの臨床検査技師の役割〜」に多くの方が耳を傾けた。エンディングでは幻想的な灯明が大川キャンパスの一〇周年記念を華やかに彩った。

(入試学生募集課 井上雅博)

第26回 福岡

キャンパスレポート

第七回蓮翔祭 開催

一〇月一〇日、「蓮翔祭」を開催した。今年のテーマは「繋 LINKE」。学祭を通して、在学生や地域の方々との交流を深めていきたいという思いが込められた。

看護体験での一次救命処置の体験や血圧測定、国際交流ブースのパネル展示、ステージイベント、屋台、など多彩な催しを用意した。オープンキャンパスと同日開催で、高校生、保護者、地域の皆様の協力もあり、元氣あふれる開催となった。看護体験では、地域交流委員の学生が主体となって丁寧に指導を行った。来場者から「ためになった」などの声が聞かれ、健康について学ぶよい機会となった。

特別講演会

では精神科医の香山リカ氏が「迷ってばかりいるあなたが うまくいく法則」と題して講演を行った。ご自身の体験談や人の癖をもとに、迷いの解消についてアドバイスされた。参加者は熱心にメモを取るなど、話に聞き入っていた。



●特別講演会には香山リカ氏が登場

メイン会場ではバンド演奏から始まり、うたうま(のど自慢)、ミス・ミスターコンテスト、ダンスが披露された。恒例企画の男装・女装コンテストでは、観客席へのアピールや学生の変身ぶりに驚かせられ、歓喜雀躍で大変な盛り上がりを見せていた。



●盛況だったサークルの屋台

サークルによる屋台では、カレーライス、焼きそば、肉巻きおにぎり、たこ焼き、フライドポテト、からあげ、フランクフルトやジュースフロートなど例年より品数も増え、毎年恒例となっている綿菓子無料配布も好評であった。実行委員長を務めた田中絵李捺さん(看護学科二年)から「学祭初的女性委員長としてプレッシャーもありましたが、当日はトラブルがありつつも、皆で協力し合い乗り越えることができました。後輩から『楽しかった』との声を聞いたときはよかったですと感じました。来年はよりよい学祭を創りあげてほしい」とのメッセージが発せられ、次年度は先輩からの意志を受け継ぎ、さらなる飛躍が期待できそう。

最後にこの「蓮翔祭」に参加いただき、ありがとうございました。今後は蓮の花のように清らかに優しく、凛として看護の道に精進する学生らに、ご支援賜りますようお願いいたします。

(教授・学生委員長 今村桃子)

第10回 大学院

キャンパスレポート

オープンキャンパス 開催

九月一二日、大学院の東京青山・大田原・小田原・福岡の四キャンパスを同時双方向遠隔授業システムで結び、オープンキャンパスを実施した。当日は各キャンパスあわせて一九〇名が参加し、大学院で実施したオープンキャンパスでは過去最多の参加者となった。



●天野大学院長によるご挨拶

午前と午後の二部構成で、午前は天野隆弘大学院長、午後は臨床心理学専攻の亀口憲治専攻主任の挨拶に始まり、大学院の特長、学生生活、入試の説明に続き、各分野専攻(研究科)にわかれての個別進学説明会を開催した。説明会では各分野・専攻・研究科で実際に教鞭をとっている教員により行われ、

午前の部と午後の部の間には、特定行為看護師養成分野(旧ナースプラクティショナー養成分野)の教員・院生による救命講習会が開催され、オープンキャンパス参加者の有志が参加した。大学院が所有するシミュレータ機器を用い、喉に詰まったものを除去するハイムリッック法や、気管内挿管、胸骨圧迫、自動体外式除細動器(AED)の使い方などを実際に体験した。



●個別進学相談会の様子

今年度より東京青山キャンパスでは、留学生、入試、学生相談コーナーに加え、本学グループで働きながら大学院で学びたい人のために就職相談コーナーを設けるなど、幅広く学生を受け入れるための取り組みを展開した。本格的な入学試験シーズンを控え、大学院の各分野・専攻・研究科では説明会や授業見学会といったイベントを企画、実施している。大学院進学を検討されている方は、随時大学院ホームページを確認していただきたい。

(東京青山キャンパス 大学院事務局 近納一重)



第1回
成田

キャンパスレポート

キャンパスのオープンに
向けて
「公津フェスタ」に参加

一〇月二日、公津の杜駅前ロータリーで「公津フェスタ」が開催された。会場は足場がとれたばかりの成田キャンパスの目の前であり、本学は昨年に引き続き協賛し、ブースを設けて参加した。

用意した三〇〇部の資料はなくなり、成田キャンパスへの関心の高さがうかがわれた。キッズ向け企画「体の音をきいてみよう」のコーナーでは一〇〇名以上が体験し、ドクターコートを着た子どもたちが、着任予定の看護教員の指導を受けながら、心臓の位置を確かめ、真剣に鼓動を聞いていた。ブースの前には保護者による記念撮影で終始賑わい、「子どもの将来の進学先は、本学と決めている」、「医学部の設置を期待している」といった声も耳にした。主催者からは「来年は、ぜひ学生さんにフェスタ



●あー、聞こえた!



(開設準備室 綿貫尚子)

●子どもたちが大学をバックに記念撮影



●ロータリー側から見た校舎の全景

第18回
塩谷看護
専門学校

キャンパスレポート

スポーツ大会開催

一〇月二日、本校の秋の風物詩であるスポーツ大会を開催した。フィギュアスケートの浅田真央選手の競技復帰、ラグビー日本代表の歴史的な勝利など、スポーツの話題に事欠かない今日この頃、学生たちにとってはそれぞれ得意な種目で身体能力を披露できる絶好のチャンスである。運動神経とは縁のない私にとっては、なんともうらやましいかぎり。

選手がその力を十分に発揮できる要因の一つとして応援がある。私が知り得る限り、今年は応援に一段と熱の入った大会だった。声がかかるまで大声を出す学生、拳を握りしめてじっと見守る学生など、初めは個々のスタイルで応援していた。しかし、競技が進むにつれて自然発生的にクラス全員によるパフォーマンスに変化していき、会場は応援合戦の嵐に包まれた。三学年がそれぞれ団結している光景に教員は感激し、「日常もこうであってほしい」と願った。

特に、良くも悪くもおとなしく、これが学習態度にも影響している三年生が団結している姿には感無量だった。大会前に三年生の一部から「総合優勝をめざしたい」と珍しく意欲ある言葉



●総合優勝の3年生、アッパレ!

が聞かれた。それは国家試験に向けて危機感が乏しく、まとものいないクラスが団結するためにはこれが最後のチャンスであり、総合優勝がその起点となる理由であった。その言葉通り、競技者も応援者も一つになつて、見事に有言実行を果たした。

応援は一種のコミュニケーションである。単に激励するのではなく、競技者を発奮させるために、自然に声をかけるタイミングや言葉を選んでいく。一得点に一喜一憂する姿は、クラス全員による共感行動といえる。この団結力が継続できるように教員は学生の応援団となつて、「君たちはやればできる」とエールを送り続けよう。あとは、学習への集中力が高まるよう、「五郎丸ボーズ」に匹敵するそれぞれのルーチンワークを見つけてほしい。

(教務部 村上貴子)

大田原キャンパス 留学生別科

留学生別科入学式を開催

一〇月二〇日、大田原キャンパスにおいて、北島政樹学長、丸山仁司副学長、糸山泰人副学長、丸木一成常務理事、小林一也事務局長、留学生別科教員ほか関係職員出席のもと、「平成二七年度 国際医療福祉大学 留学生別科 秋季入学式」を挙行了。



●入学式を終え、全員で記念写真

留学生別科は、日本語を母語としない学生が日本語を習得し、日本事情文化等の理解を深めるための教育を行うことを目的に本年四月に設置された。一〇月開講に向けて準備を進めてきた結果、第一期生として一四名フィリピン人男性四名女性九名タイ人女性一名が入学した。

北島学長から、本学の特長である関連職種連携教育の重要性について説明があり、「歴史的にも由緒あるこの大田原の地でしっかり勉学に励んでほしい」と激励があった。それを受けて留学生を代表してアユバン ジェリーベル ジュニア

オガハヨンさん(フィリピンからの男子留学生)より、「留学の実現のためこれまで支えてくれた家族の思いに応えるためにも、しっかりとがんばりたい」との力強い宣誓があった。

役職者および教職員紹介では、出席者から留学生に対して温かい挨拶があった。入学式の後、会場をレストラン・オーブに移して懇親会が開催された。留学生による日本語での自己紹介、留学を実現させた現在の心境、将来への思いを重ねた英語の歌「The Journey」の感動的な合唱など、和やかな雰囲気の中、さらに懇親を深めた。



●留学生の合唱も披露された懇親会



●成田空港での入国直後の様子

天候に恵まれ、四季桜が咲く中、留学生別科の船出にふさわしい一日となった。本科留学生第一期生としてこれから学ぶ知識、経験、感動が、彼らによってグローバルに発信されることにより、来春以降さらなる留学生の入学増加につながることが期待される。

(留学生別科 三浦克之)

大田原キャンパス

合同教員研修会を開催

九月一五日、大田原キャンパスを発信源とした遠隔システム利用の合同教員研修会を開催し、教員二八九名が参加した。二〇回目となる教員研修会は、授業や研究の場などで教員が共通に抱える問題や悩みについて、ともに考える情報交換を行うことを目的としている。今年度のテーマは「医療福祉分野における高等教育のありかた―学生の主体性を引き出すファシリテーション力を高める―」。「アクティブラーニング」(講演者:天野隆弘大学院長)と「関連職種連携教育」(講演者:千葉大学 酒井郁子先生)の講演に続き、講演者と各キャンパスから選出された代表者により、講演を基調とした討論会が行われた。



●基調講演をする千葉大学・酒井先生

その中で、千葉大学大学院看護学研究所附属専門職連携教育研究センター長の酒井先生より、関連職種連携教育について基調講演をいただいた。千葉大学の関連職種連携教育は、千葉大学亥鼻キャンパスで亥鼻IPEとして、医学部・看護学部・薬学部で実施されている。同センターは、亥鼻IPEの企画運営をはじめ、専門職連携に関する教育、実践および研

究を発展・進化させていくことを目的に組織化された。関連職種連携教育の本質についての言及から始まり、基礎教育で何を学習支援するか、関連職種連携を実践するうえで何を教育支援するかを、経験をもとに講演。ただ、亥鼻IPEの今後の展開と課題により締めくくられた。

本学は医療福祉の総合大学として、いち早く職種間連携の重要性に着目し、学生のうちに「チーム医療・チームケア」の実践を体験する独自の関連職種連携教育を実施している。ここではアクティブラーニングの手法が取り入れられており、「関連職種連携ワーク」では異なる専門職をめざす学生がチームを作り、ひとつの症例をもとに、グループワークによって「チーム医療・チームケア」を学ぶ問題解決型体験学習(PBL)が行われている。PBLによる学修展開は、教員が専門領域を問わず指導する体制を構築し学修を支援するので、本研修の副題である「学生の主体性を引き出すファシリテーション力」が求められる。



●北島政樹学長、糸山泰人副学長も参加した

この研修が教員の自己研鑽の一助となり、本学の教育力の向上と教職員の価値の共有化につながることが期待される。

(FD委員会事務局 小林季幸)

大田原キャンパス 看護学科

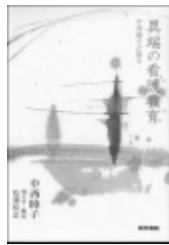
「第二代看護学科長 中西睦子先生を偲ぶ会」開催

去る五月七日、保健医療学部第二代看護学科長の中西睦子先生が逝去され、九月二六日、東京プリンスホテルで有志による「偲ぶ会」が開催された。全国から多くの看護教育者や看護管理者が参加し、高知県立大学学長南裕子先生の司会のもと、本学はじめこれまで中西先生が教鞭をとられた大学の卒業生や修了生が先生との思い出を語った。時に厳しくもありながら、看護に携わる者への慈愛に満ちた先生の在りし日を彷彿させるエピソードは、終始日本看護界を牽引され続けてこられた中西先生に、敬意を表する内容だった。



●学科長就任当時の中西先生

遺作となった『異端の看護教育』（写真）にも触れられた。これは、



長年看護教育に携わってこられた先生の体験的なジレンマを通して、後に続く多くの看護者に応援メッセージを託す重みのある著書である。私も大学院生として指導いただいたことに感謝しつつ、改めてご冥福をお祈り申し上げます。

（看護学科 講師 鈴木美恵子）

「おおかわ交流プラザ」完成記念式典

一〇月一日、鳩山二郎・大川市長、服部誠太郎・福岡県副知事など約四〇〇人が出席して、「おおかわ交流プラザ」完成記念式典を行った。

当プラザは、「地元映画館がほしい」「本格的な書店やカフェがほしい」という学生の声をきっかけに、国際医療福祉大学・高邦会グループ百周年記念事業の一環として着手された。四月より、「認定こども園高邦キッズハウス」・大川市委託事業「高邦病児保育室」・「有明クリニック おおかわ交流プラザ通所リハビリテーションセンター」・「横文館書店・ドトールコーヒーショップ」が順次オープンし、大川市にとって約四〇年ぶりとなる映画館「大川シネマホール」の営業開始をもってグラウンドオープンを迎えた。



●壇ふみさんを迎えた記念フォーラム

川崎隆生・西日本新聞社代表取締役社長のコーディネートのもと、女優の檀ふみさん、映画評論家でコラムニストの矢野寛治さん、鳩山市長、本学の和田秀樹教授が、「映画の力と地域の再生」をテーマに記念フォーラムを行い、檀ふみさん出演映画「春を背負って」を上映した。

（九州地区広報室 神塚泰史）

看護学科と同窓生の絆

今年、看護学科創立二〇年を迎え、一七回目の卒業生を送り出した。母校の看護学科がこうして看護人材を輩出し続けてきたことを、第一期生として誇りに感じている。

八月二十九日、思い出が詰まったこの大田原キャンパスで、同窓会「マロニエ会」看護学科分科会を開催した。第一期生の



●絆を確かめあった同窓生と教員

平山香代子氏による「私の地域における在宅療養を支える多職種連携」の講演をはじめ、同窓生と教員が懐かしい思い出話に花を咲かせ、来年も大田原で会う約束を交わした。準備や運営に多くの教員・同窓生のご協力をいただき盛大な会を開催できたことに、改めて看護学科の絆の強さを感じた。

（看護学科 講師 王麗華）

山王病院 新館手術室でダ・ヴィンチ稼働開始

これまで当院では、低侵襲内視鏡手術センターを中心に各分野で内視鏡手術を行ってきたが、このたび手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ」による手術を行う環境を整え、さらに体制を強化した。

今年二月にオープンした新館地下一階手術室に、「ダ・ヴィンチSi」を導入。四月には、「ロボット（da Vinci Si）手術認定医」と、日本で数少ない「泌尿器ロボット支援手術プロクター（手術指導医）」の資格を持った大久保秀紀泌尿器科医長が着任し、七月から前立腺がんを対象にダ・ヴィンチによる手術を開始した。



●新館手術室とダ・ヴィンチSi

手術はいずれも良好な結果を収めており、アメニティが充実した当院にて、最新機器を使用した経験豊富な専門医による手術を受けられると好評である。今後により多くの実績を重ねるべく、近隣医療機関への働きかけに一層力を入れていきたい。

（総務課 松橋悦子）

大田原キャンパス 視機能療法学科

元培醫事科技大學留學生が四年連続、視機能療法学科で学ぶ

九月、台湾の元培醫事科技大學の視光系から四年連続で短期留學生三名が来日した。後期の半年間滞在し、二年生・三年生とともに講義と実習に参加する。

当初は慣れない環境に戸惑う様子も見られたが、少数グループでの実習が始まると、漢字・日本語・英語、ときにはスマートフォンでの翻訳機能まで駆使して学ぶ真摯な姿勢が印象的だった。本学科の学生がボディランゲージを交えたコミュニケーションで応える光景も見られ、相乗的に学びながら向上していく姿に頼もしさを感じている。



●前列左から、新井田孝裕学科長、黄俊強さん、陳彦希さん、曾昱愷さん

一〇月二日、国際室の協力のもと、恒例の学生主体による歓迎会が開催され、教職員を含め約一〇〇名が参加した。日本での滞りが多いものとなるよう学科を挙げてサポートするとともに、日本語クラスで語学力の向上をめざす。留學生と学科学生双方が豊かな国際感覚を身につけ、両校の交流が、より盛んになることを期待している。

（視機能療法学科 講師 四之宮佑馬）

全国リハビリテーション学校協会教育研究大会・教育研修会

全国リハビリテーション学校協会（高木邦格理事長）は、八月二六日から二八日の三日間にわたり「第二八回教育研究大会・教員研修会」を東北文化学園大学（仙台市）にて開催した。「リハビリテーション教育の未来に向けて」をメインテーマとして各種講演やシンポジウムを実施。全国から約五二〇名が参加した。



●開会にあたってスピーチする高木理事長

東北地方での開催であったため、特別報告「東日本大震災時に養成校の教育をどうにか守ったか」が企画された。

また、新たにラウンドテーブルディスカッションが取り入れられ、参加者は活発な議論を通じて交流を深めた。口述発表とポスター発表をあわせて過去最多となる一六七演題が披露され、盛会のうちに終了した。

本学からは六〇名の教員が参加し、発表や調査報告を熱心に行っていた。

（総務企画部 住谷旦）

大田原キャンパス 総合教育センター 語学教育部

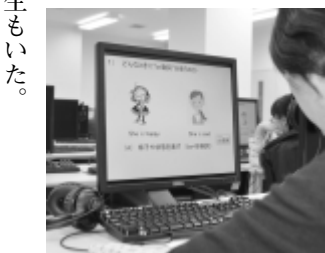
公開講座「学び直しの英文法」開催

中級者向けに行った昨年の「TOEIC公開講座」に続き、今年度は「学び直し」をキーワードに、初級レベルの英語講座を開講した。



●受講者はパソコンやヘッドフォンを使って英語に触れた

「『学生時代は英語の勉強が好きだったけれど忘れちゃった...』、『英語はあまり得意ではなかった...』という方、もう一度英語を学び直してみませんか？」をキャッチコピーに公募を始めたところ、定員を上回る多くの応募をいただいた。



一〇月から一月にかけて四回実施した講座には幅広い年代層の参加があり、中には母娘で参加した、という微笑ましい受講生もいた。

（語学教育部 講師 久好孝子）

全老健全国大会

九月二日から四日、全国老人保健施設協会が主催する「第二六回全国老人保健施設大会神奈川in横浜」が開催された。「高齢者が輝く未来を」をテーマに、医療・介護ロボットなどをテーマとした記念講演やパネルディスカッション等多様な企画が用意され、約五〇〇名の参加者が集った。



●開会式の様子

大会開会式では、マロニエ苑の河原典子相談室室長が、長年にわたる老健施設での功労を評価され、介護老人保健施設事業功労者厚生労働大臣表彰を受賞した。当グループからは、マロニエ苑の横地正之施設長がセッションの座長を務めたほか、マロニエ苑と水郷苑より看護師、介護福祉士、リハビリテーション専門職の八名が参加。業務や研究を通じて得た成果を発表した。事務職からも一〇名が参加して各研修会や演題発表を積極的に聴講し、有意義な大会となった。

（総務企画部 住谷旦）

山王病院・三田病院

ベトナム健康管理委員会訪日団が来訪

一〇月二二日、ベトナム政府高官の健康管理を行う政府機関(特別委員会)である「ベトナム健康管理委員会」の訪日視察団一行一〇名が、山王病院、山王メデイカルセンター、三田病院を視察した。

今回の来日は、ベトナム政府高官の診察や治療、さらには遠隔診断等の国際医療協力を図るのにふさわしい、日本の先進医療機関を視察することが目的で、予防医学センターを中心に視察した。



●三田病院で桂研一郎予防医学センター長の説明を受ける訪日団

同日夜の歓迎会には、高木邦格理事長、北島政樹学長、天野隆弘大学院長、松谷有希雄大学院教授、堤治山王病院院長が出席し、グエン・クオック・クオン駐日ベトナム大使閣下にも特別にご出席いただいた。視察団のメンバーには、政府高官だけが受診する軍病院の副院長等も含まれ、今後、さまざまな分野での連携が期待される。



●ベトナム大使閣下も参加された歓迎会

(総務企画部 高野文生)

「健康長寿広報展 in ベトナム」に出展

本学は、一〇年以上交流のあるベトナムのチョーライ病院と連携して、日本人間ドックサービスを提供する健診センターをホーチミン市に開設するプロジェクトを進めており、九月一日から三日、同市で開催された「健康長寿広報展 in ベトナム」に出展した。

この展示会はJETROが主催し、経済発展に伴って増加するがんや生活習慣病の予防意識の向上や、日本の健康関連企業等のPRを目的としている。日本からは医療機器メーカーや健康食品関連企業など、三五社・団体が参加した。

本学ブースでは、パネル展示に加えて、身長・体重・血圧・骨密度・心電図等を測定する簡易健康診断を実施。



●盛況だった簡易健康診断

〇〇名が来場した。また、ステージ発表では、本学およびプロジェクトの説明とともに肩こり予防体操を紹介した。

今回の出展によってベトナム人の健康に対する意識の高さがうかがえた。今後、こうした機会を活用して、プロジェクトのPRに努めていきたい。

(国際部 加瀬文彦)

附属病院

国際医療福祉大学塩谷病院

「とちぎ健康フェスタ2015」に参加

一〇月一八日、栃木県主催の「平成二七年度健康長寿とちぎづくり推進県民大会」とちぎ健康フェスタ2015(目指せ!健康長寿日本一)が開催され、当院看護部の「地域活動チーム」五名が参加した。

この催しは、イベントを通して健康長寿に関心を持ってもらうことが目的で、宇都宮市のとちぎ健康の森で開催された。約三〇〇の団体が出展し、五〇〇人以上が来場した。当院は「触れて健康!健康長寿情報エリア」に出展し、正しい手洗い方法を紹介した。



●意外に洗い残しが多くてびっくり!

また、蛍光塗料とブラックライトを用い、手洗いの洗い残しを視覚的に確認する体験も行った。

当院のブースには約六〇人が来場し、「きれいに洗ったつもりでも、汚れが残っていて驚いた」、「いつもこれほど丁寧に手洗いをしていなかった」という感想が聞かれた。

今後も活動を通し、地域の感染予防に貢献していきたい。

(総務課 國分さやか)

附属病院

国際医療福祉大学病院

新人看護師対象の宿泊研修を開催

平成二七年度入職の新人看護師四七名を対象とした宿泊研修を、一〇月三〜四日に那須セミナーハウスで実施した。

研修は、専門職業人としての自覚を深める接遇研修、協働を目的としたグループワークトレーニング、六か月フォロー(振り返り)に加え、今年度は臨床心理士によるストレスマネジメントの講義、エゴグラムによる自己分析、ストレスコントロールの方法等の研修を行った。

職場から離れた施設で、同期との情報交換等を行いながら心身のリフレッシュを図り、今後に向けて前向きに取り組むための目標を設定することができた。また、社会人として六か月を迎えたこの時期に、組織(病院)として物的・人的にサポートされていることを実感すること、帰属意識をより高めることができ、職業継続への動機づけの機会としても得ることの多い研修となった。



●グループごとにそれぞれ発表を行った

(副看護部長 小川京子)

附属病院

国際医療福祉大学三田病院

専門外来の勉強会を開催

当院の聴覚・人工内耳センターでは難聴専門外来、補聴器専門外来を行っている。人工聴覚器の分野では日本のトップレベルを誇り、難聴遺伝子検査・造影剤を使用した3T・MRI検査・外リンパ瘻の診断などの最新の検査と、人工内耳、骨導インプラント、残存聴力活用型人工内耳、人工中耳などの手術が可能である。

難聴患者様の治療の選択肢は増えており、人工聴覚器手術を受けた方や難聴で通院中の方を対象に、定期的に「人工聴覚器患者さんの勉強会」を開催している。

また、九月に着任した田村雄一医師により、た田村雄一医師により、肺高血圧症専門外来を開設した。肺高血圧症は全国に数千人しかいない希少疾患で、難病に指定されている。新しい治療法は極めて専門性が高く取り扱いが難しいため、対応できる医師は少ない。田村医師は日本と欧州で四〇〇例以上の治療に携わり、他の病院で治療が困難とされた多くの患者様の治療にあたってきた。当院では、患者様向けの勉強会を開催し、最新の情報提供とともに、社会的サポート、心理的サポートを行っていく。(総務企画課 川井直子)



●9月に開催された「人工聴覚器患者さんの勉強会」の様子

(総務企画課 川井直子)

附属病院

国際医療福祉大学熱海病院

「救急の日のイベント2015」開催

九月一〇日、当院大会議室において、熱海市「救急の日」のイベント2015が開催された。

熱海市は、静岡県定める「救急の日」(九月九日)および救急週間に合わせて、救急車の適正利用を啓発することを目的に、平成二五年度から救急医療を担う三病院(熱海所記念病院、南あたみ第一病院、当院)を中心に、共催でイベントを開催している。



●AEDの使用方法について説明を受ける参加者

当日は、当院救急科の久村正樹准教授が「救急医療について」と題して講演会を実施。また、熱海市消防本部が「熱海市の救急 現状と課題」をテーマに講演とAEDを利用した救急救命講習を行うなど、来場者に救急医療の重要性と適正利用について訴えた。

参加者から久村准教授や消防隊員に対して活発な質問が寄せられるなど、地域の救急医療に役立つものとなった。

(総務課 村山京三)

●留学生が見た 母国と日本の保健福祉事情

●キッティマ ワッタナカモルクルさん
修士課程2年 生命薬科学専攻 タイ出身



私はタイで薬剤師資格を取りました。薬剤師の資格は国ごとに与えられるので、タイの資格はそのまま日本では通用しませんが、薬学のベースは通じているものは変わらないと思います。日本に来て気がついたことのひとつに、薬の有効成分量があります。一部の薬では一回の成分摂取量が日本の方が少なく、タイは欧米と同じ量です。この違いは副作用を最小化するためと聞きました。健康保険制度も、タイと日本では仕組みが大きく違います。タイでは緊急の時以外に、健康保険証を使う病院が指定されていることは、日本ではほとんど知られていないと思います。また、無料である国立病院は、お金に余裕のある人は、自費で私立病院に行くといった事情もあります。

私は薬に関連する医療経済に興味があつて、本学の修士課程に進学しました。医薬品や保険制度など、医療制度に関するものを経済的な視点から分析することにより、たとえば、ワクチンの無償化など、国の施策を決定するための参考になります。将来的には、タイと日本の二国間から世界的な医療コラボレーションまでを見据えるようになりたいです。



日本に来る前から、日本の文化にも興味がありました。日本は、テクノロジーの開発能力が高く、文化を世代から世代へ伝えていくイメージが強いと思います。さらに、日本人はルールをよく守ります。東日本大震災のときには、被災された方がみなコンビニに整然と並んでいるのをテレビで見て称賛されました。こうしたことの背景にある日本人の考え方や要因を知りたいと思っています。日本はずいぶん高齢化がすすんでいますが、タイでも高齢化がすすんでいますが、これから急速に進むことが予想されています。日本が経験してきたことや日本社会のスタイルの背景から、参考にしたり、学んだりできることがあると思います。

最後に、現在、学部で学んでいるみなさんには、ぜひ海外を経験してほしいと思います。それも、単なる観光旅行ではなく、短期でもいいので留学をおすすめします。異文化に触れ、専門としている薬学に関しても、それぞれ国の事情によって異なる側面を持つこと、日本と違うところを知ることにより、初めて日本のよいところに気がつきます。さらに、異なる境遇を体験することで、自分の実力を発見することができ、これは、将来にきっと役立つ経験になると思います。

本学はキャリアアップをめざす医療福祉職の方々を支援するため、大学院進学をはじめとするさまざまな学習の場を提供しています。

IUHW Graduate School Information

国際医療福祉大学大学院

医療福祉専門職として活躍中の卒業生のみなさん、
大学院でさらなるレベルアップをめざしませんか！
本学卒業生は入学金が免除となります。
本学グループ職員対象の奨学金制度もあります。

「働きながら大学院で学びたい」
社会人が学びやすい3つの特長

- ①キャンパス 大田原、東京青山、小田原、熱海、福岡、大川に6つのキャンパスを開設しています。
- ②カリキュラム 多くの授業を平日の夕方以降と土曜日の昼間にしています。
- ③同時双方向遠隔授業 複数のキャンパスでリアルタイムに受講できます。質問やディスカッションといった同時双方向のコミュニケーションが可能です。

TOPICS 各分野で進学説明会を実施中

助産学分野、福祉支援工学分野、診療情報アナリスト養成分野、医療経営管理分野など、複数の分野で進学説明会を予定しています。進学をご検討されている方、興味を持たれている方はぜひご参加ください。

詳細・お申し込みは大学院ホームページをご覧ください。

<http://www.iuhw.ac.jp/daigakuin/index.html>

大学院入試に関するお問い合わせは入試事務室まで (TEL : 0287-24-3200)

学べる!役立つ!究める!動画サイト。医療・福祉・介護のエキスパートのあなたへ

医療福祉eチャンネル <http://www.ch774.com> 好評配信中

平成27年4月、「医療福祉eチャンネル」「VODライブラリー」がリニューアルしました。
Windows PC、Mac OS、スマートフォン、タブレット等で視聴可能になりました。

主な配信番組

●理学療法分野
リハ評価指標 温故知新一臨床力レベルアップー

●介護・福祉分野
自立支援型ケアマネジメント・
自立支援介護

●医療・福祉・経営実務
社会保障の論点
保健医療福祉政策論



●リハビリテーション共通分野
立位・歩行を考える:
移動障害への
対応を目指して



●厚生労働省情報
介護人材確保地域戦略会議(第3回)
(8月20日21日開催)※無料配信

●乃木坂スクール
医薬品マネジメント

●情報BOX
納得!カラダ事典(健康に役立つ情報を
専門医がわかりやすくお教えします)

お問い合わせは フリーダイヤル 0120-870-774 医療福祉eチャンネル お客様係 (月曜～金曜 9:00～17:00)
Eメール info@iryofukushi.com 〒107-0062 東京都港区南青山1-3-3 青山一丁目タワー4階

IUHグループ職員・学生向け動画配信サイト 「国際医療福祉大学VODライブラリー」 <http://www.ch774.com/student.php>

主な配信番組 ●大学授業・副教材
文学論、教育学、ボランティア論、国際医療福祉論、生命倫理、医療福祉教養講義、日本近現代史、宗教学、音声障害学、PT動作分析論、生理光学、公衆衛生看護活動、産業看護の基礎、視能訓練学、他

広報誌 IUHW 103 号

発行：学校法人 国際医療福祉大学

〔大田原キャンパス〕 広報委員会
栃木県大田原市北金丸2600-1 ☎0287-24-3000

〔成田キャンパス〕
千葉県成田市公津の杜4-3 ☎0476-89-1500

〔小田原キャンパス〕
神奈川県小田原市城山1-2-25 ☎0465-21-6500

〔福岡キャンパス〕
福岡県福岡市早良区百道浜1-7-4 ☎092-407-0805

〔大川キャンパス〕
福岡県大川市榎津137-1 ☎0944-89-2000

編集：大田原キャンパス広報室 ☎0287-24-3210
デザイン：野佐デザイン



医療福祉の多彩なエキスパートを育てる。

国際医療福祉大学

<http://www.iuhw.ac.jp/>

同窓会通信

Vol.9

平成二七年度同窓会「マロニエ会」
関東支部会(各分科会)開催報告

八月二十九日、大田原キャンパスにて、同窓会関東支部会イベントを開催しました。今年も国際医療福祉大学学生会術大会(一日目)と同日開催で、同窓生にご参加いただけるイベントを多数用意して、内容の濃い支部会をめざしました。

幹事会・総会では、マロニエ会代表幹事兼関東支部会長の上田清史さん(保健医療学部理学療法学科一期生)から挨拶があり、学科やキャンパスの枠を越えた関東支部会組織のあり方や、母校の発展に寄与できる同窓会活動についての熱い思いが語られました。

続いて、北島政樹学長が、「同窓生の叡智と母校愛を集め、大学を支える組織に成長してほしい。また、同窓生が同窓生を支える奨学金等の取り組みはぜひ推進していただきたい」と、本会へ大きな



●同窓会への期待を語る北島学長と上田マロニエ会代表幹事

期待を寄せられました。また、丸山仁司副学長から「開学二〇年を振り返って―温故知新―」をテーマに、開学から現在までの卒業アルバム写真や、一昔前の大田原市内の写真が紹介されました。懐かしい映像に見入る同窓生や教員の笑い声が印象的でした。



●多くの同窓生が出席した

その後、分科会にわかれ、卒後研修や懇親会の時間を過ごしました。八つの分科会はこの会場も大変盛況で、総勢四七一名が参加しました。



●理学療法学科分科会の様子

当日のアンケートでは、「参加理由」で一番多かった回答は、「同窓会活動を応援したいから」でした。皆様の気持ちに込めることができよう、今後とも幹事一同力を合わせて「マロニエ会」の発展に尽力していきたいと思います。

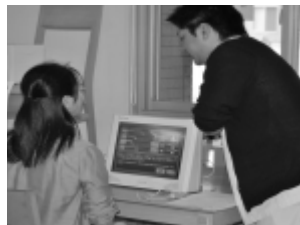
次年度の開催については、大学広報誌の発送にあわせて、来年六月をめどにご案内をお送りする予定です。また、同窓会ホームページや月初めに配信しているメールマガジンでもご案内します。今回都合により参加を見合わせた方も、ぜひ、次年度の参加をご検討ください。

九州支部会事業

「月華祭」
同窓会企画(イベント支援)報告

一〇月一〇日、一日、同窓会九州支部会では、福岡保健医療学部大学祭「月華祭(げっかさい)」に出店参加しました。

初日は、お弁当販売と、高校生や在学生、保護者の方を対象に大学生活の疑問や相談に応じる「大学生活相談コーナー」を実施し、両日にわたり、「血管年齢・ストレス測定コーナー」と「肌年齢測定コーナー」を開設しました。特に「血管年齢・ストレス測定」は長蛇の列となりました。今回の盛況を受けて次年度の実施を検討します。



●肌年齢測定中。数値に一喜一憂



●特製弁当(笑顔付き)を販売!

第一IUHW(福岡保健医療学部)野球部OB主催勉強会 開催報告

一〇月一八日、福岡保健医療学部野球部OBによる勉強会を開催し、野球部への寄付を募りました。講義内容は「肩の評価について」、「投球と理学療法について」、「ACLの術後リハビリとメディカルチェック」、「メディカルチェックとトレーナー活動報告」、「ランニング障害に対する理学療法」の五つ。次年度

以降も福岡保健医療学部野球部への支援を目的に同窓会活動の一環として継続する予定です。

平成二八年度同窓会海外留学等奨学制度 募集開始についてのご案内

海外の大学または研究機関に留学する本学卒業生(修了生)に対して、財政的な援助を行う奨学金制度です。現在、一名の同窓生が渡英留学のため奨学生となっており、次年度も引き続き募集いたします。

募集期間は、平成二七年二月から平成二八年三月末日です。応募に関する詳細情報や応募書類(所定様式)は同窓会ホームページから取得できますので、海外留学をご検討の同窓生は、ぜひご応募ください。

★住所等が変更になった同窓生へ(お願い)

今後同窓会からの各種ご案内をお送りするために、住所勤務先氏名等の変更の際には、お手数ですが同窓会事務局まで一報ください。

同窓会ホームページ、電話、FAX、メールでも受け付けています。また、スマートフォンをご利用の方は、左記のQRコードをご利用いただけます。(お使いの携帯機種によりサバーに接続できない場合があります。データを送信できない場合は、お手数ですがパソコンまたはFAXでご連絡ください)

同窓会「マロニエ会」事務局
栃木県大田原市北金丸2600-1
国際医療福祉大学学生課内
TEL : 0287-24-3055/FAX0287-24-3140
Mail : office-maronie@iuhw.ac.jp





私の故郷自慢!

大田原キャンパスには全国から学生が集まっていて、普通の友だちとの会話のなかでも、これまで当たり前だと思っていたものが、実は自分の故郷のローカル物だったことに気がつく、といったことがしばしばあるようです。そこで今回は、青森県と茨城県の学生に、これこそ「私の故郷自慢」という話題を紹介してもらいました。



青森県には十和田湖より広い湖があります!



保健医療学部
視機能療法学科2年

佐竹可子さん

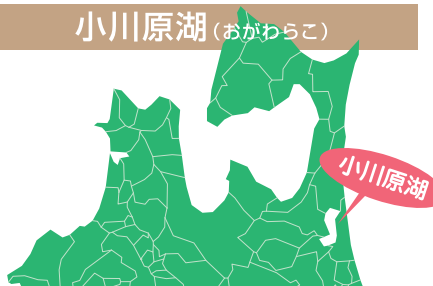
(青森県立八戸北高校出身)

ふじ

青森といえばりんご。その中でも「ふじ」が有名です。店頭に並ぶのは11月から12月。袋かけをせず、糖度を高めたのが「サンふじ」です。



小川原湖 (おがわらこ)



全国で11番目の広さをもつ小川原湖。高瀬川で太平洋とつながっていて、潮位によって海水が流れ込む汽水湖です。地元では「たからぬま(宝湖)」といわれるほど漁獲量が豊富で、しらうお、わかざきは全国第1位、しじみは第3位。渡り鳥の飛来地としても有名で、冬に飛来する白鳥は県の天然記念物に指定されています。



●しじみ採り



●わかざぎの穴釣り

源たれ

青森県民はみんな知っていて、家庭の冷蔵庫に必ずある焼肉のたれです。万能調味料として、焼肉や野菜炒めのほか、揚げ物の下味つけにも使います。上北農産加工農業協同組合が作っていて、青森県産のりんご、たまねぎ、にんにくをつけています。最近では、全国のスーパーで手に入ります。



地元の友だちが撮ってくれました。



私が通学に使っていた青い森鉄道の上北町駅。小川原湖のほとりにあります。

茨城県のメロン生産量は、全国シェアの約25%で日本一!



保健医療学部
看護学科2年

大崎省人さん

(茨城県立水海道第一高校出身)

メロン

茨城県は北海道や熊本県を抑えてメロンの生産量日本一。水はけの良い土地と昼夜の気温差の大きい気候がメロン作りに適しています。オトメメロン、イバラキングメロン、アンデスメロン、クインシーメロン、タカミメロン、アールスメロンなど、種類も豊富です。



筑波山



万葉集にも歌われている名峰で、筑波嶺(つくばね)とも呼ばれています。大田原キャンパスから望む八溝山地の最南端に位置します。

地元では幼稚園の遠足に「つくば登山」があって、私ももう数えきれないくらい登っています。

歌川広重『名所江戸百景』より

「西の富士、東の筑波」と称され、茨城県の県西地方からの眺めが美しいとされる。



小倉百人一首でも、筑波嶺の峰より落つる みなのか恋ぞ積もりて 淵となりぬる (陽成院)と詠われています。

豊田城

常総市のランドマークがこの豊田城。地域交流センターで、平成4年にオープンしました。地元の作家で正岡子規門下の長塚節の展示コーナーがあります。中学のときにクラス対抗のコーラスコンクールでこのホールを使った思い出があります。



でも、私は納豆が苦手です。



茨城と聞いて、多くの人が真っ先に思い浮かべるのは、何といっても納豆!